

授業科目名	国際社会学
授業科目名（英字）	Global and Transnational Society
時間割	後期 水曜日 2校時 -
対象年次及び学年	3年次
担当教員	園部 裕子
ナンバリングコード・水準	
ナンバリングコード・分野	
ナンバリングコード・ディプロマ・ポリシー(DP)	bcd
ナンバリングコード・提供部局	E
ナンバリングコード・対象学生	
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応	N
ナンバリングコード・授業形態	Lx
ナンバリングコード・単位数	2

関連授業科目	ヨーロッパ関連の科目
履修推奨科目	
学習時間	○事前学習：世界（特にヨーロッパやフランス）の動きについて、新聞を読んだりニュースを見たりする習慣を付け、自分なりの疑問をもち、積極的に調べたり、読んだりする。各回につき1時間（計15時間） ○各回の授業後：講義ノートをふり返し、配布された資料を読んで理解を深める。そこから学んだことをミニレポートにまとめ、自分の意見、質問なども書いて提出する。各回につき1時間（計15時間） ○中間レポート：移民統合に関連する文献を読んで、自分の意見をまとめる。（計10時間） ○期末レポート：本1冊を読んで、要約を作成するとともに、自分の意見をまとめる。じっくり読んで考察すること。（計20時間）
授業の概要	現代社会では、グローバル化とともに人の移動が顕著となり、社会娯容への対応が求められている。国際移動を理解するには、途上国社会の現状、その歴史的背景としての植民地化、労働市場と外国人労働者、家族の受け入れと社会統合、送出・受入社会における女性の地位など、さまざまな観点からの分析が求められる。この講義では、国際社会学の課題から国際移動論の中心的なテーマをとりあげ、多角的に分析する方法と視点を学ぶ。 ＊フランスとその旧植民地・西アフリカの事例を中心とする。
授業の目的	国際移動の理論と歴史、移住者の地位、受け入れ社会の役割について説明できる。
到達目標	1グローバル化による人の国際移動とその諸課題について、理解する。（共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応） 2移住者の立場を理解し、社会統合に何が必要かを説明できる。（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」） 3グローバル化による人の国際移動とその諸課題について、自らの問題設定に基づいて分析できる。（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」 「市民としての責任感と倫理観」に対応）
成績評価の方法	①各回の小レポートによる授業の理解度と貢献度（30％）（到達目標1）、②中間レポート（20％）（到達目標2）、③期末レポート（50％）（到達目標3）により総合的に評価する。 ①、②いずれかの要素が不足していたり、そろっていても理解度・習熟度が極端に不十分な場合は、単位は認定されない。講義をもとに、自分で疑問をもち、問いを立ててそれについて調べたり読んだりし、議論を展開する訓練をどれだけ積んだかが評価される。
成績評価の基準	成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。
	【授業および学習の方法】 ・講義が中心になる。テーマに関連する映画や映像資料、また現地調査中に収集した写真や映像、資料などを使用することもある。 ・毎回、感想や意見、質問などをミニレポートにまとめてもらう。次回の冒頭でいくつかの意見を紹介したり、質問に回答したりすることで、双方向的な議論ができるようになる。 【講義計画（予定、変更の可能性がある）】 1「国際社会学」とは・基本用語 2 国際移動の理論――1 3 国際移動の理論――2 4 国際移動の理論――3 5 国際移動の理論――4 6 フランスの植民地関係――1 7 フランスの植民地関係――2

授業計画並びに授業及び学習の方法	8 戦後の移民労働者動員と家族の受け入れ――1 9 戦後の移民労働者動員と家族の受け入れ――2 10 1980年代からの多文化主義と移民排斥――1 11 1980年代からの多文化主義と移民排斥――2 12 国民国家・移民・シティズンシップ――1 13 国民国家・移民・シティズンシップ――2 14 国際移動とジェンダー――1 15 国際移動とジェンダー――2、まとめ ＊本講義は対面で行うが、都合により遠隔となることがある。 【自学自習の方法】 ○世界（特にヨーロッパやフランス）の動きについて、新聞を読んだりニュースを見たりする習慣を付け、自分なりの疑問をもち、積極的に調べたり、読んだりする。各回につき1時間 ○各回の授業後：講義ノートをふり返り、配布された資料を読んで理解を深める。そこから学んだことをミニレポートにまとめ、自分の意見、質問なども書いて提出する。各回につき1時間 ○中間レポート：課題文献を読んで、自分の意見をまとめる。計10時間 ○期末レポート：本1冊を読んで、要約を作成するとともに、自分の意見をまとめる。計15時間
教科書・参考書等	毎回、資料を配布する。この講義用のファイルにまとめるなどして、自学自習に使うこと。 参考書：カースلز・ミラー編、011（1993・2006）『国際移民の時代』名古屋大学出版会 園部裕子、2014『フランスの西アフリカ出身移住女性の日常の実践――社会・文化的仲介による「自立」と「連帯」の位相』、明石書店 園部裕子訳「僕はハレド・ケルカル――テロ容疑者になった移民の若者のライフストーリー」『香川大学経済論叢』第82巻第1・2号、p. 169-191（https://kagawa-u.repo.nii.ac.jp/record/6612/files/AN00038281_082-1%2B2_L169.pdf） 児玉由佳編、2020『アフリカ女性の国際移動』、アジア経済研究所 その他、講義中に紹介する。
オフィスアワー	質問は講義後に随時受け付けます。 オフィスアワー：講義中に指示する。連絡がある場合はMoodleからメッセージを送ること。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	・2024年度 夜間主科目（前期前半）グローバルスタディーズAの単位を修得している場合は履修できない。 ・小レポートを6回以上、提出しなかった場合、それ以降の受講資格はないものとする。 ・映像資料を見る間に居眠りする者は、欠席扱いとする。 ・講義中の出入り、携帯電話の操作など、他の受講者の迷惑となる行為は慎むこと。受講態度が改善されない場合、学期中でも受講を断る場合がある。
参照ホームページ	
メールアドレス	連絡がある場合はMoodleからメッセージを送ること。
教員の実務経験との関連	
特記事項	障がい等により本授業の受講に際し特別な配慮を要する場合は、所属学部・研究科の学務係（医学部・医学系研究科は学生係）又はバリアフリー支援室に事前に相談してください。